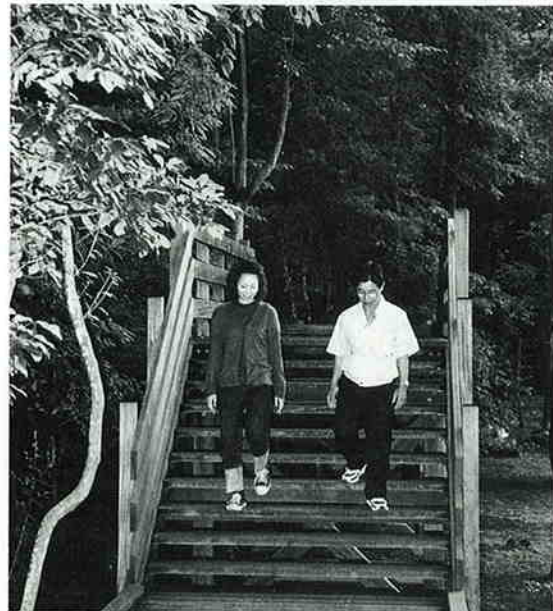


# 「自然を大切に作る心」 「自然にやさしい心」で スポーツを楽しんでみませんか



「リスになった気分で木立の中を歩いてみました。たくさん木に囲まれて、とてもすがすがしいですね。」と内山さん。

## REPORTER'S EYE



【リポーター】  
内山 仁美さん（入間川）  
リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

### スポーツや森の散策で気持ちいい汗流してみませんか

市内には智光山公園をはじめ、たくさん公園やスポーツ施設がありますが、皆さんは、堀兼地区にもこんなすてきな公園があるのをご存じでしょうか。今日は武蔵野の雑木林に囲まれた赤坂の森公園をご紹介します。平成7年に開園したこの公園は、堀兼・上赤坂にまたがる森の中にあり、多目的グラウンドや木々に囲まれた散策路を持つ、面積約5万平方メートルの、市内で3番目に大きな都市公園です。

多目的グラウンドは1周400メートルのトラック、また、ソフトボールや少年サッカーなら2面同時に利用できるほどの広さがあり、多目的という名前のとおりゲートボールなどにも利用できるそうです。私は中



平日活動したいサークルのみなさんには、特にいい練習場所となりそうですね。

学校で陸上部に所属していましたので、もう少し早くこの公園が開園していればと、残念です。グラウンドの利用は2時間を一つの単位として、午前9時から午後5時までが利用時間ですが、今年初の試みとして、6月から8月までの3か月の間の土曜日と7月20日の海の日には朝7時から9時と夕方5時から7時も利用できます。照明などをつけて、もつと夜遅くまで利用したいというかたもいると思いますが、周囲の木成長に影響があるため、ナイター設備はできないとのこと。自然に配慮した公園だと感じました。そして、管理棟には運動施設を利用したかたが汗を流して気持ち良く帰れるよう、シャワーや更衣室も用意されているほか、会議室はスポーツ、自然保護や環境に関する会議や勉強会に利用するときには、無料で借りられるそうです。皆さんも問い合わせしてみてください。



赤坂の森公園  
堀兼2484-3 ☎959-1200

## 動物が好きでたまらない!! 現場で動物の診療にあたる 臨床獣医師



まさみち  
関根 匡道さん  
(元智光山公園こども動物園獣医師)



馬房で「やあ、久しぶりだね。」関根さんが声をかけると、アングロアラブの「スベンサー」もごあいさつ。先ほどマーコール(羊の仲間の)檻の前を通ったときも、関根さんを見つけたマーコールが近寄ってきました。

「子どものころから動物が好きでした。」とおっしゃる関根さんは、今年の3月まで智光山公園のこども動物園に獣医師として勤務していらっしやいました。動物好きとの言葉どおり、子どものころからニワトリやウサギはもちろん、当時としてはまだ珍しかった七面鳥なども飼ったことがあるそうです。昭和30年に学校を卒業すると、埼玉県農業共済組合連合会の家畜診療所に勤務。本庄家畜診療所、八代家畜診療所を経て昭和47年に狭山市に赴任されました。「家畜診療所では、主に乳牛を診ていました。昭和30年代は牛も県内に2万頭もいたけれど、最近は減ってしまいいなくなるほど寂しいですね。また、卒業して臨床の道に入ると、学問として授業を受けていたのと実際に現場で診察してみるとは違うんです。経験の大切さを感じました。」



「当たり前だけれど、治療した動物が元気になるのはうれしかったですね。ときには治療のいかなく死んでしまったり、とても悲しい思いをしたこともあります。」と関根さん。

と関根さんはおっしゃいます。平成5年4月からは智光山公園こども動物園の獣医師として、サル山のそばにある動物病院でいろいろな動物の診察や治療にあたりました。家畜と動物園での診療は違う反面、興味もあつたそうで、日ごろから動物の健康管理、特に動物が伝染病にかからないように非常に気をつかつたそうです。病気が弱つていた動物を一生懸命治療して、その動物がまた元気になって、大勢の人にみてもらえる。ふれあいコーナーで子どもたちに喜んでもらえる。嬉しいことですね。また、診察や治療だけでなく、国内でもまだあまり例のない、ホオカザリヅルの人工受精などにも意欲的に取り組んできました。動物園を退職して、やっと自分の時間が持てるようになり、「これからは趣味の旅行を通していろいろな動物に会ってみたいですね。今はダチヨウに興味があるんですよ。」と関根さんの動物好きに終わりはありません。これからは優しい目で動物をみられることでしょう。

### 私の趣味

#### 木彫



菊池敏幸さん(上広瀬在住)

私が木彫をはじめたのは、今から15年ほど前に広瀬公民館の木彫教室を受講したのがきっかけで、仲間たちとサークル「もくの会」をつくりました。木彫の教本や雑誌を参考に、家庭で使える実用品を目標に丸彫、浮き彫、透かし彫、組木など、独自の案でサークルの仲間と教えあい、たくさん作品に挑戦しました。作品は公民館の文化祭や勤労者文化祭にも出品し、平成5年には自分の手をかたどった「グー・チョコ・パー」が狭山市長賞、平成8年には「水車小屋」が労働基準局長賞をいただき、励みにもなりました。また、家庭で使えるよう作った作品は、知り合いの新築祝などに贈って大変喜ばれています。このように毎日自分で使う、みんなに使ってもらえる物を作るのが楽しみなんです。これからは木の温もり、そして二つとない自分の作品の楽しさを忘れずに作っていきたいと思います。